

全世界 204 の国歌を歌って応援！1,300 人以上が参加！
世界中へエールを届ける 「Yell for one プロジェクト」
特設ページと YouTube で公開開始！

日本財団ボランティアサポートセンター(以下ボラサポ)では、東京 2020 大会に海外から参加される選手、応援したくとも会場に来られない観客のために、世界の国歌を歌って応援する「Yell for one プロジェクト」の特設ページを 7/20(火)より公開しましたので、お知らせいたします。



■「Yell for one プロジェクト」特設ページ URL : <https://www.volasapo.tokyo/volunteer-info/yellforone>

■「Yell for one プロジェクト」特設ページコンセプト

ボラサポでは、様々な東京 2020 大会関連のボランティアと研修やイベントなどで接する中で、「海外から来たくとも来られない人たちにも気持ちを届けたい」「すべての選手を応援したい」といった声があったことから、今回の全世界 204 の国と地域の国歌(国旗歌・賛歌)を歌って、世界中にエールを届ける「Yell for one プロジェクト」を企画しました。

当初、本企画は大会ボランティアや都市ボランティアなど東京 2020 大会関連のボランティアの方々に国歌を歌ってもらうよう働きかけました。しかし徐々に応援の輪が広がり始め、ボランティアの家族やその他国内外の子供から大人まで様々一般の方にも多く本プロジェクトに参加していただき、延べ 1,350 人が計 204 か国の国歌を歌ってくれています。

■「Yell for one プロジェクト」動画概要

特設ページには計 204 か国の動画が掲載されています。

それぞれの動画は、6 人一組で自撮りしていただいた動画を 6 画面にして掲載しています。(右写真ご参照。歌唱は一番の歌詞のみ)

参加者が担当する国は事務局で割り当てていますが、一部縁の深い国がある方にはその国歌を歌ってもらったりしたケースもあります。印象深いストーリーをお持ちの 2 名を別紙にて掲載しております。

■協力

キングレコード株式会社 東京混声合唱団 日本フィルハーモニー交響楽団
東京都 札幌市 宮城県 福島県 茨城県 埼玉県 千葉県 横浜市 藤沢市 山梨県 静岡県
株式会社ディレクションズ 合同会社 TNZQ



「一般財団法人日本財団ボランティアサポートセンター」 概要

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会と日本財団が 2017 年 6 月に締結したボランティアの連携・協力に関する協定に基づき、当該協力に係る事業を実施する団体として設立されました。当財団は、ボランティア育成を通じた 2020 東京大会の成功と、大会後に繋がるボランティア文化の醸成を目指しています。

所在地：〒107-0052 東京都港区赤坂 1-2-2 日本財団ビル 3 階 代表者：渡邊 一利 (笹川スポーツ財団 理事長) 設立：2017 年 9 月 29 日



日本国歌を歌った、
チュング英米梨(エイペリー)さん

東京都在住
ニュージーランド出身
大会ボランティア

【動機】

昔から日本のアニメやゲームが大好きでした。その思いが大きく将来日本で働きたいと思っていました。そしてゲームクリエイターの道を目指し、大学時代に日本に留学して、今東京のゲーム会社で働くことができます。オリンピック・パラリンピック招致が日本に決まった時、すごい嬉しかったです。その時から何か大会に関わりたいと思っていたので、大会ボランティアにも応募し、今回の企画もぜひやりたい！と思って参加しました。

【感想】

自撮りで国歌を歌うなんて初めてなので楽しかったです。私は日本が好きなので、日本国歌を希望し、それが通ったので浴衣を着て歌ってみました。また日本国歌は聞いたことはありますが、歌ったことはありませんでした。歌う前には歌詞を調べて、その意味も調べて歌いました！歌う事も楽しかったです、また一つ日本を知れてよかったです。



サウジアラビア国歌を歌った、
時田祥弘さん(中央)

神奈川県在住
大会ボランティア

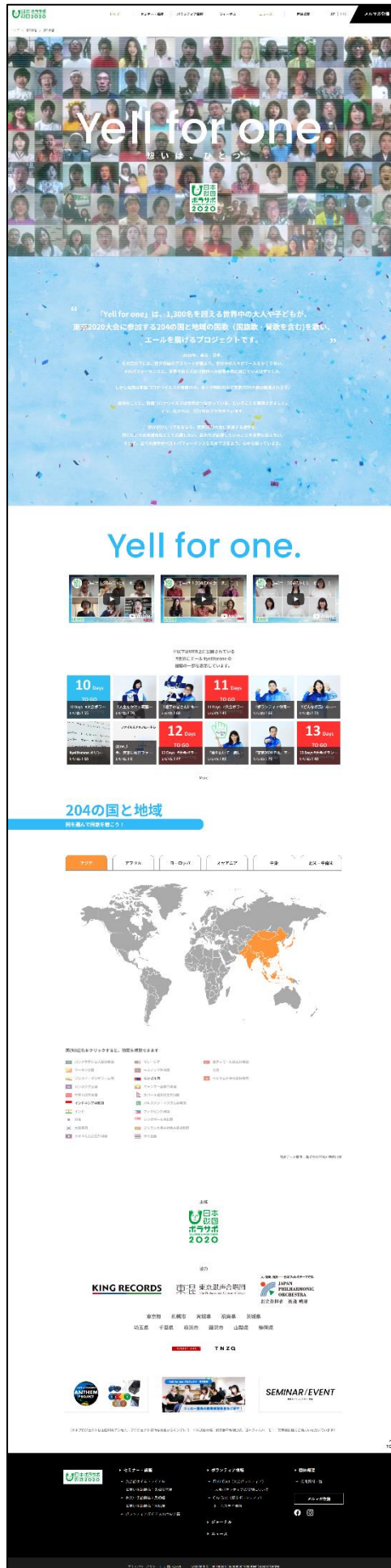
【動機】

仕事の関係で 25 年間サウジアラビアに単身赴任していました。サウジアラビアの人達はとてもフレンドリーなんですよね。私も現地の人たちを助け助けられながら日々生活をしていました。それで仕事もうまくいき、その 25 年の感謝を込めてぜひサウジアラビアの国歌を歌いたいと思い、今回の企画に参加しました。

【感想】

1 人で歌うのはちょっと恥ずかしかったのですが、妻と娘にも一緒に歌ってもらいました。うまく歌えていなくても、その思いがサウジアラビアのかつての同僚や関わった人達に伝わればよいという気持ちで歌いました。歌った後に妻が「家族訪問でサウジアラビアに行ったとき、親切にしてくれたのを思い出して、懐かしかった。」と言ってくれたのが嬉しく、私も同時に懐かしい気持ちになれましたね。

■ ページイメージ



【本件に関するお問い合わせ】日本財団ボランティアサポートセンター 広報部 倉田・小久保
 携帯:070-7514-4529 Email: pr@volasapo.tokyo ※ボラサポでは現在、在宅勤務を実施中です。

